



# Rainbow ~伝統を繋ぎ煌めく未来へ~

## 集え青春 ~over the rainbow~

コロナ禍明けの最初の文化祭、そして女子校最後ということで、二日間にわたり一日だけ保護者の方や地域の方を招いての開催としました。夏休み前から準備をはじめ、大変だったことと思います。一人では当然できませんし、同学年の仲間や学年を超えて先輩たちとの連携協力が必要になります。相互のコミュニケーション、意見の調整など苦労も多々あったことでしょう。その分、本番が始まり素晴らしい盛り上がりの中で、これまでの苦労や努力の分だけ大きな喜びがあり、感激もひとしおのことだったと思います。きっと青春の一ページを彩る素晴らしい思い出の一つになったことでしょう。

錬金術の等価交換のように、苦労や努力した分だけ、真剣に取り組んだ度合いだけ、大きな感動と喜びを手にすることができます。大事なことは、今この時に真剣に向き合い楽しめることです。そのことは、時を大事にすることでもあります。一度しかない人生を充実させることであり、幸せになる鍵でもあります。青い春と呼ばれ、人生で最も美しく輝ける今を大切に、自分を超えていきましょう。挑戦する姿は美しい。

### 「青春」サミュエル・ウルマンの詩を下に紹介します。

青春とは人生の或る期間を言うのではなく心の様相を言うのだ。

優れた創造力、逞しき意志、炎ゆる情熱、

怯懦を却ける勇猛心、安易を振り捨てる冒険心、

こう言う様相を青春と言うのだ。

年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いがくる。

歳月は皮膚のしわを増すが情熱を失う時に精神はしぼむ。

苦悶や、狐疑、不安、恐怖、失望、

こう言うものこそ恰も長年月の如く人を老いさせ、精気ある魂をも芥に帰せしめてしまう。

年は七十であろうと十六であろうと、その胸中に抱き得るものは何か。

曰く「驚異への愛慕心」空にひらめく星晨、その輝きにも似たる事物や思想の対する歓迎、事に處する剛毅な挑戦、小児の如く求めて止まぬ探求心、人生への歓喜と興味。

人は信念と共に若く 疑惑と共に老ゆる

人は自信と共に若く 恐怖と共に老ゆる

希望ある限り若く 失望と共に老い朽ちる

大地より、神より、人より、美と喜悅、勇氣と壮大、そして偉力と靈感を受ける限り、人の若さは失われない。

これらの靈感が絶え、悲歎の白雪が人の心の奥までも蔽いつくし、皮肉の厚氷がこれを固くとぎすに至ればこの時にこそ人は全くに老いて神の憐れみを乞う他はなくなる。

原作 サミュエル・ウルマン 訳詞 岡田義夫

## 自分を大切に、そして自分で自分を育てていこう！！！！

9月13日(金) JA山口農業協同組合講演会を実施し、株式会社グローバルキャリア代表取締役の場亮氏の講演を聴きました。70分間という長い時間でしたが、途中で息抜きの活動タイム等が2回あり、テンポよく、エネルギーに話を展開され、あっという間でした。皆さんの感想にも、良かった、短かったというものが大部分でしたし、すごく勉強になったと、心に残った言葉と、今後どうして学校生活を送っていくべきかという内容を、思い思いに綴(つづ)って来ていました。

下の言葉や内容に、強く心を動かされていたようです。

**意識の転換** → 依存(誰かや何かに頼る気持ち)から自立(自分で責任を負う)へ

**学ぶ意識** → 目標を決める。積み上げていく。基準をあげる。

**姿勢** → 一流の頑張りをする。一度きりの高校生活を1回本気になる。

**目的意識** → 何のために学ぶのか、頑張るのか考える。

**ポジティブな言葉を使う。** → Dの言葉(だって、どうせ、でも)から

やらない理由やできない理由を探すことになる

Yの言葉に(やるぞ、よっし)

前向きになる

**結果=心(モチベーション)×技(スキル)×体(フィジカル)**  
で心の数値をあげる。

**感謝** → 内なるエネルギーを高める。

**時間の使い方** → 目的を実現するために時間を使う。

## 運や運命は、自ら運んでくるもの 人が運んでくるものではない

### ☆マザー・テレサ

思考に気をつけなさい、それはいつか言葉になるから。

言葉に気をつけなさい、それはいつか行動になるから。

行動に気をつけなさい、それはいつか習慣になるから。

習慣に気をつけなさい、それはいつか性格になるから。

性格に気をつけなさい、それはいつか運命になるから。

## 心を育み、脳を活性化する読書

日暮れが早くなり、夜が長くなります。読書の秋です。中間考査の勉強をしつつ、気分転換に読書もいいです。現実と物語二つの世界を生きることができます。生き方を、心の動きを学べます。



『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら』 汐見夏衛 著

スターツ出版文庫

現実世界と終戦直前の時代が交錯して物語が展開します。特攻隊員の若者と中2の女子の恋愛が軸になりますが、その背景として戦争の理不尽さとそうした社会の現実がありながら、誠実に直向きに生き抜く姿に感動します。戦争の不条理と尊い犠牲の上に現代の平和があることを知るとともに、学ぶ必要性を感じました。